

主 題：教会の建て方3

聖書箇所：エペソ人への手紙 4章11－16節

先週、一通のファックスが教会に入りました。そこには次のようなことが記されていました。「今、現在、教会の中には受洗者が少ない、新来者が少ないという危機、その危機感が高まっているのではないかと？そのような中で信徒が増え続けている教会や、少数の働き手で何千人も集まる教会で、実際に行なわれている伝道方法が分かる情報誌をご用意しました。」とそのような案内でした。そして、このように続きます。「成長している教会にはこのようにして人が集まっているという事実には耳を傾けるだけでも、月に一度、これをお読みいただく価値はあると思います。」と。多くのクリスチャンたちが、多くの教会が、どうすれば神が喜ぶ教会を作ることが出来るかと、そのことを真剣に考えています。けれども、残念ながら、すべての教会がそのために正しい方法を取る訳ではありません。確かに、多くの人が集まるのが悪いわけではありません。けれども、多くの人が集まるから神が喜ぶ教会なのかということではありません。残念ながら、成長している教会にはこのように人が集まっている、そのことを学べば、そのことを知れば、その方法を真似るなら、私たちの教会も良い教会になるのではないかと、大きな教会になるのではないかと、そのように考える方はたくさんいらっしゃいます。けれども、神が願っておられるのはそのようなことでしょうか？神が願っておられるのは、私たちがこの世で成功している様々な教会を真似て、その働きをすることなのではないでしょうか？

私たちは教会の建て方ということを考えています。最初に、このテーマで話したときに私たちはコリント人への手紙第1、4章のみことばを見ました。そこで私たちは、教会のリーダーたちはそれぞれの教会をイエス・キリストという土台の上に建てなければならないということを学びました。パウロが据えたイエス・キリストの教えにしっかり基づいて、それに根ざして、その土台にふさわしい素材を使って教会を建てなければいけないということを学びました。それはまさに、イエス・キリストの真理であり、そのことを誠実に忠実に正確に人々に宣べ伝えることが教会を正しく建てる方法だったのです。それゆえに、教会の長老たち、教会のリーダーたちの最も重要な役割、責任は、彼らがイエス・キリストの真理をしっかりと学び、その真理をしっかりと適用し、彼ら自身がその真理を生きることを通して模範を示し、人々にその真理を説き明かし、それを人々が適用することが出来るように促すことでした。

もし、そのことをしっかりと行なっていないとするなら、その教会は不完全なふさわしくない素材で建てられたものであるということを見ました。燃えてしまうと言っていました。けれども、教会のリーダーたちが熱心にみことばを学び、それをしっかりと正しく忠実に説き明かすなら、そこに建て上がる建物は燃えることの無いふさわしい素材で建て上げるということを、パウロは第1コリント4章で教えたのです。

そして、先週、私たちはキリストがこのようなリーダーたちを教会に賜物としてお与えになったことを学びました。エペソ人への手紙4章11節にそのことが記されていました。キリストが教会に使徒や預言者、伝道者たちや牧師・教師たちと呼ばれる者たちをお与えになったのは、キリストのからだである教会がしっかりと建て上げられ、聖徒たちが整えられ、彼らがみことばの教えを通して彼らの召しにふさわしい歩みを、クリスチャンとして為して行くことが出来るためだったのです。先週、私たちはそのことを見ました。けれども、一つの疑問が私たちの前にあります。それは何かと言うと、もし、教会が燃えることの無い素材で建てられたとしても、牧師や教師と呼ばれる教会のリーダーたちが、みことばの働きだけに熱心になっていたとするなら、教会の他の働きはいったいだれがするのですかという疑問です。建物は立派かもしれませんが。燃えることの無いすばらしい建物が建つかかもしれませんが、ひょっとすると、その教会の中身は空っぽかもしれません。もし、教会のリーダーたちがみことばの学びを優先してその学びに熱心になったとするなら、いったいだれが病院を訪問しますか？いったいだれが家庭集会や聖書研究会をリードしますか？いったいだれがカウンセリングをするのですか？

教会には様々な働きがあります。もし、牧師たちが、もし、教会のリーダーたちがその働きをしないなら、建物は立派でも中に何もない教会が出来上がるかもしれません。いったい、そのような教会を建てて神は喜ばれるのでしょうか？それが教会のあるべき姿でしょうか？その疑問に私たちは今日答えて行きたいと思います。教会を考える上で、このエペソ人への手紙4章11節から16節の箇所以上に大切な箇所は見つからないのではないかと、私は正直思います。そこでパウロは、教会がどのように建てられるべきかという設計図を私たちに与えてくれているのです。前回と同じように、この続きを見て行くのですが、私たちが求めることは、この学びを通して、教会がどのように建てられるべきなのかということ

を私たちがしっかりと理解することです。理解した上で、私たちに与えられている役割を一人ひとりがしっかりと為すことです。そうすることによって何が起こるのでしょうか？神が喜ばれる教会が建て上がるのです。この教会が神が求める通りの教会に変わって行きます。ですから、今朝もこの箇所を皆さんとごいっしょに見て行きたいと思います。エペソ 4：11-16 を読みます。

- ：11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。
- ：12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、
- ：13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身だけにまで達するためです。
- ：14 それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもてあそばれたりすることがなく、
- ：15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。
- ：16 キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。

前回、私たちはこのエペソ 4：11 と 12 の最初の部分を見ました。今日も最後まで行きません。ですから、進み具合が遅くても安心して聞いていてください。前回、最初に私たちが見たことは、キリストが教会に賜物としてある人たちをお与えになったということでした。キリストは教会にどのような人たちをお与えになったのでしょうか？教会を建て上げるために、神が、キリストが教会に賜物としてお与えになった人物、それが 11 節に記されていました。使徒たち、預言者たちは教会の土台を据える者たちでした。彼らは神学・教理という土台を据え、その教理に基づいて、私たちクリスチャンがどのように生きなければいけないのかという、その実践を私たちに教えてくれました。それゆえに、クリスチャンであるなら、私たちはみな、この使徒たちや預言者たちに私たちの信仰生活を負っていると言ってもおかしくありません。信仰生活は彼らのゆえに守られているのです。彼らがいなかったら私たちはどのようにクリスチャンとして生きて行ったらよいのか分からなかったのです。神はすばらしい賜物を教会に与えてくださいました。そして、その後に、キリストは伝道者たち、牧師・教師と呼ばれる者たちをお与えになりました。彼らは使徒たちや預言者たちの働きを継承したと言ってもおかしくありません。パウロは自らの働きを終えるに当たって、その自分の働きのバトンを信仰の息子であったテモテに託す訳ですが、その時彼は言いました。「伝道者としてしっかりその働きを為しなさい」と。「使徒として働きなさい」とは言わなかったのです。そして、ペテロは同じ長老として、教会の長老たちにその責任を全うするように、教会を養い導く働きをしっかりとするようにと励ましを与えていました。これらのことはⅡテモテ 4：5「しかし、あなたは、どのようなばあいにも慎み、困難に耐え、伝道者として働き、自分の務めを十分に果たしなさい。」、Ⅰペテロ 5：1-4「そこで、私は、あなたがたのうちの長老たちに、同じく長老のひとり、キリストの苦難の証人、また、やがて現われる栄光にあずかる者として、お勧めします。：2 あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを、牧しなさい。強制されてするのではなく、神に従って、自分から進んでそれをなし、卑しい利得を求める心からではなく、心を込めてそれをしなさい。：3 あなたがたは、その割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい。：4 そうすれば、大牧者が現われるときに、あなたがたは、しばむことのない栄光の冠を受けるのです。」に記されています。

伝道者たちはキリストが知られていない所でイエス・キリストを宣べ伝える人たちです。彼らは出て行ってイエス・キリストにある救いの良い知らせを人々に告げ知らせ、人々が救われたなら彼らを集めて教会を建て、その教会に集まる人たちを教化、教育することによって成熟させ、その教会を託して次の場所へと出て行く者たちでした。ちょうど、使徒たちが一つの町から次の町へと旅を続け、この福音を多くの人たちに告げ知らせて行ったように、伝道者たちもそのようにしているのです。それに対して、牧師・教師と言われる人たちは、ちょうど、預言者たちのような者です。預言者たちは、使徒たちが新しい町にやって来て救いを宣べ伝え、救われた人たちが教会を形成し教会が建て上がった時に、彼らが出て行った後、まだ、新約聖書が出来ていない時代に、神からの直接的な啓示を受けて、そして、クリスチャンたちがその教会にあって町にあってその地域にあって、どのように神に喜ばれる生き方をして行くのかを明確に説き明かし、彼らを教え導いていた人物たちでした。同じように、牧師・教師たちも一つの地域の教会に留まって、そこに集まって来るクリスチャンたちを教え導き養い、彼らがクリスチャンとしてふさわしい歩みを生きて行くことが出来るように整える働きを担っていたのです。これら伝道者たちや牧師・教師たちもまた、キリストからの教会に対するすばらしい賜物であった訳です。このような人たちが教会には与えられていました。

そして、2 番目に私たちが見たのは、これらの賜物として与えられた人たちには一つの目的があった

ことでした。一つのゴールがあったのです。それが前回、私たちが見た最後の箇所でした。もう一度、そのことを話して、その続きを皆さんといっしょに見て行きたいと思います。この一つの目的とは何なのか、そこでこの12節の冒頭のことばが上げられていたのです。**「聖徒たちを整えて」、**これがその目的です。この**「整える」**ということばを前回細かく注意深く見ました。新約聖書ではここでしか使われていない名詞であって、そして、このことばの語源となる、同じグループに属する動詞は、このような意味をもっていたと私たちは見ました。それは「完成する、完全にする、ふさわしい元の状態に回復させる」、そのような意味でした。つまり、キリストがこれらの人たちを教会にお与えになったのは、聖徒たちがふさわしい整えられた準備できた人物たちになるためだったのです。私たちは文脈を見ました。このエペソ人への手紙の後半部分の最も強調していたこと、それは4:1にありました。**「召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。」**と。つまり、パウロが言っていることは、キリストがこのような人物を教会に賜物としてお与えになったのは、彼らがその働きを全うすることによって、聖徒たち一人ひとりが整えられて、準備万端すべてのことが出来るように成熟した者となって、彼らが召された召しにふさわしい歩みをして行くことが出来るためだったのです。

パウロにとって、人々が成熟して行くこと、人々が整えられて行くことは、まさに、彼の働きの目的でした。当然です、使徒が与えられた目的はそのことだったからです。だから、パウロは何度も何度もそのことを書簡の中で記しています。例えば、Iテサロニケ3:10**「私たちは、あなたがたの顔を見たい、信仰の不足を補いたいと、昼も夜も熱心に祈っています。」**、何を祈っていたのですか？パウロはテサロニケに行きたかったのです。行って人々の顔を見たかっただけでない、それ以上にしたかったことは**「信仰の不足を補いたい」**ということだったのです。この**「不足を補う」**ということばが**「整える」**と訳されている名詞の動詞形のことばなのです。同じグループのことばが使われているのです。つまり、パウロが言っていることは、私たちはあなたがたの顔が見たいです、あなたがたの所に行つてあることがしたいのです。それは、あなたたちの欠けている所を十分に満たして、あなたたちが整えられた者となるように、私はそのことを祈って止まないということです。皆さん、テサロニケの人たちは救われていましたか？救われていました。教会の人たちだから救われていたのです。パウロはそれで満足すればいいのではないのですか？そうではありません、パウロは満足できないのです。なぜなら、彼が使徒の役割として与えられていたことは、人々が救われることではなくて、人々が整えられて欠けた所のない者になるためだったのです。

コリントの教会も同じでした。若いクリスチャンばかりでなかなか思うように成長せず、パウロをいつも苦しめていた、彼の心の重荷となっていた、そのようなコリントの教会、その教会に人々に対してパウロがその手紙の一番最後に、心から彼らに求めて願ったことは何か？IIコリント13:9, 11**「:9 私たちは、自分は弱くてもあなたがたが強ければ、喜ぶのです。私たちはあなたがたが完全な者になることを祈っています。」**、同じグループのことばが使われています。**「あなたがたが完全な者になることを祈っています。」**、**「:11 終わりに、兄弟たち。喜びなさい。完全な者になりなさい。慰めを受けなさい。一つ心になりなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神はあなたがたとともにいてくださいます。」**、パウロは何を祈っていましたか？**「兄弟たち。喜びなさい。完全な者になりなさい。」**、パウロの目標、パウロが求めたことは人々が救われること以上に、人々が完全な者になることです。この地上において、彼らが召しにふさわしい歩みをしっかりと成し遂げることが出来るように整えられた者となることだったのです。

そして、それはパウロだけの願いではありませんでした。ヘブル人への手紙13:20-21、これもヘブル人への手紙の最後の部分です。そこでこの手紙の著者はこのような祈りを祈っています。**「永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを死者の中から導き出された平和の神が、:21 イエス・キリストにより、御前でみこころにかなうことを私たちのうちに行ない、あなたがたがみこころを行なうことができるために、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者としてくださいますように。どうか、キリストに栄光が世々限りなくありますように。アーメン。」**、同じことを祈っていませんか？同じことを願っていませんか？神がイエス・キリストによって、神の前でみこころにかなうことを私たちのうちに行なつて、あなたがた聖徒たちがみこころを行なうことが出来るために、すべての良いことについて完全な者としてくださるようにと、ヘブル人への手紙の著者も同じように願ったのです。完全な者になってください、それゆえに、牧会の働きの究極的な目的は「聖徒たちを完成させること」と言うことが出来ると思います。キリストが教会に与えたこれらの人たちは、その一つの目的のために、その一つの責任を果たすために働きを為していたのです。だから、パウロはコロサイ人への手紙の中でこのように言いました。1:28**「私たちは、このキリストを宣べ伝え、知恵を尽くして、あらゆる人を戒め、あらゆる人を教えています。それは、すべての人を、キリストにある成人として立たせるためです。」**

皆さん、これが伝道者、牧師・教師と言われる者たちが、今現在、教会に与えられている目的なのです。これが使徒や預言者たちが存在した理由なのです。皆さん、イエスは山上の説教の中で非常に興味

深いことをおっしゃいました。皆さんよくご存じです。マタイ5：48「だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。」、イエスは冗談で言っているのではありません。私たちはこのことばを聞くときに、「それは無理です」と言って笑って過ごすことは出来ないのです。なぜなら、神がその働きをされるに当たって、神はこの「完全」ということを常に意識して働きをされているのです。どういうことでしょうか？説明します。

○神が与える完全さとは？

(1) 立場上の完全さ＝皆さんが救われたとき、イエス・キリストを信じたとき、皆さんはどうなりますか？皆さんがイエス・キリストを信じて救われたとき、皆さんは立場的に完全な者になりました。キリストの義が皆さんに転嫁されて、私たちはキリストの義を受けて、神は私たちを神の前に完全な者として立つことが出来るようにしてくださいました。ヘブル10：14に「キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって、永遠に全うされたのです。」とある通りです。ですから、私たちが信仰をもったその初めに、私たちは立場上完全な者になったのです。それだけではありません。

(2) 究極的な完全さ＝私たちは立場上完全な者になっただけでなく、究極的にも完全な者になることを神は約束されていませんか？イエス・キリストと顔と顔を合わせてお会いするとき私たちはどうなりますか？キリストに似た者となるのです。Iヨハネ3：2にそのことが教えられています。「愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現われたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。」、Iコリント15：52では「終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。」とあります。私たちは「変えられるのです」。キリストに似た者として完全な者として生きることが出来るように完璧にされるのです。皆さんそのことをよくご存じです。つまり、私たちの信仰生活の初めも信仰生活の終わり、終わりと云わないです、究極的な姿になるそのときも、永遠に入っていくその瞬間から、私たちには完全が約束され完全が与えられているのです。

(3) 実践的な完全さ＝そして、それだけではありません。実はこの二つの間にも完全があるのです。もうすでに与えられている立場上の完全さと、約束として与えられている究極的な完全さとの間に、私たちは実践的な完全さをもっています。正確に言うなら、それが求められています。そして、それこそがパウロがここで語っていることなのです。「整える、完成させる」ということです。

皆さん、立場上の完全さを達成するにおいて私たちは何かしますか？何か出来ることがありますか？何一つありません。神が一方的に私たちの信仰のゆえにキリストの義を私たちに与えてくださることによって、私たちは完璧な者と見られる訳です。100%神のわざです。そして、究極的な完全さ、これも私たちは何もすることはありません。私たちは主にお会いしたその瞬間に、神が私たちを完全な者に変えてくださるのです。これもまた100%神のみわざです。でも、その間にある実践的な完成を神が求められるときに、そこに実は私たちの役割が生まれるのです。このことを私たちは「聖化」と呼びます。キリストに似た者になって行くその過程、主の召しにふさわしい歩みを私たちが歩んで行くために整えられ者となって行くその過程のことです。これこそが目的だったのです。神が使徒や預言者たちや伝道者たちや牧師・教師たちをお与えになったのは、この目的のためだったのです。

では、いったいどのようにしてそれを達成するのでしょうか？みことばの働きです。皆さん、同じことを繰り返して言っているようで申し訳ありませんが、このことは余りにも大切なのです。使徒たち、預言者たち、伝道者たち、そして、牧師・教師たちと呼ばれる者たちが為さなければならない唯一の働きは「みことばの働き」なのです。それだけです。確かに、一日の中で、みことばの学び以外にもやらなければいけないことはたくさんあります。けれども、一日が終わったときに、彼らが自分たちの時間をしっかりと守って、みことばをより深く理解し、神をより深く知り、自らの生涯にその真理を適用し、そのように生きて行こうと祈り務め、学んで理解し実践して行く、真理を人々に分かり易く説き明かし、人々がその真理を適用することが出来るように促し勧めることをしないならば、その人は神から与えられている働きを全うしていません。皆さん、私たちが霊的に完成するために、霊的に成熟して行くために、私たちには神から幾つかの事柄が与えられています。すばらしい事柄が与えられています。

○私たちが霊的に成長して行くために必要なこと

(1) 聖霊の働き

私たちが霊的に完成した者になるためには間違いなく聖霊の働きが必要です。そのことは私たちに明確に告げられています。

(a) 聖霊が私たちの完成を促す：例えば、ガラテヤ3：3にはこのように記されています。ガラテヤの人たちは救いを信仰によって受けていながら、間違った教えに惑わされて、律法を行なうことによってその救いを完成しようとしていました。それに対してパウロが彼らを戒めるのです。このように言い

ます。「あなたがたはどこまで道理がわからないのですか。御霊で始まったあなたがたが、いま肉によって完成されるというのですか。」、パウロが言っていることはこういうことです。あなたがたは聖霊によって救われたのでしょうか？それなのに、その救いを完成するに当たって、どうしてあなたがたは自分自身の肉に頼ろうとするのですか？律法の行ないに頼ろうとするのですか？そんな道理の通らないことはないでしょうということです。つまり、私たちがこの完成に到達するために何が必要かということです。肉が必要なのではなくて「聖霊」が必要なのです。聖霊の働きがなければその完成は絶対に起こりません。だから、聖霊が私たちを完成へと進ませてくれるのです。

(b) 試練が私たちの完成を助ける：また、皆さんがよくご存じのヤコブの手紙1：2－4にも、この完成がどのように起こるのかということを教えてくれています。「私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。：3 信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。：4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」、私たちがクリスチャンとして完全な者となるために私たちには聖霊の働きが必要です。聖霊に委ねて、聖霊の働きにしっかりと沿って私たちは変化して行かなければいけません。御霊の実を生み出しながら、聖霊に満たされて生きて行かなければいけません。そうすることによって、私たちは完成へと近づいて行きます。神がそれを成してくださるのです。同時に、神はその完成が早く起こるように、完成がしっかりと起こるように試練を与えてくださると言うのです。その試練を通るときに私たちはしっかりと完成を遂げて行く、「何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」、だから、皆さん、試練が与えられたときに私たちは喜ばなければいけないのです。なぜなら、神が完成に近づけてくださるからです。試練が与えられたとき私たちは感謝しなければいけないのです。

(c) 苦しみを与えることによって完全にされる：もう一つあります。ペテロはこのように言います。I ペテロ5：10「あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あなたがたをキリストにあってその永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみのあとで完全にし、強く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。」、ときに神は私たちに苦しみを与えて、私たちが完成することが出来るように働いてくださいます。苦しみを与えた後で「完全にし、強く立たせ、強くし、不動の者としてくださる」と。だから、私たちは苦しみを感謝しなければいけないのです。私たちは困難、患難、迫害を喜ぶことが出来るのです。なぜなら、神はこの目的をもってそれらを与えてくださっているからです。

(2) みことば

同じI ペテロ2：2に「生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。」とあります。どのようにして救いを得ることが出来るのですか？どのようにして救いの完成が出て来るのですか？それは「純粋な、みことばの乳を」私たちが得ることです。皆さんもよくご存じの箇所、II テモテ3：16－17「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。：17 それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」、私たちは16節のことばをよく知っていますが、17節に注目してください。神のことばは靈感によるもので、このような有益なことが出来るのですが、「それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」、完成した者となるためです。

昔、あるテレビ番組で、何人かの料理人たちが料理の技を競うというのがありました。多くの皆さんも知っておられると思います。料理人には番組が始まるまで食材が分かりません。そして、その食材が番組の冒頭で示されて、1時間という時間制限の中で料理人たちはその食材を使ってすばらしい食事を作り上げるという番組でした。「料理の鉄人」と言います。皆さん不思議に思ったことはありませんか？凄いと思ったことはありませんか？その鉄人の店で是非食事をしたいと思ったことはありませんか？何が凄いのか？彼らは食材が何であるのかを知らなかったにもかかわらず、食材を見た途端にその食材をどのように調理し、どうすれば美味しく食べることが出来るのかを考えて、その技術をもって、番組の1時間後には、皆の舌をうならせるような食事を作り上げるのです。

パウロが言っているのはこのようなことです。「テモテ、あなたが働きにおいてどのような様々な問題にぶつかったとしても、あなたがもしこの神の靈感を受けたみことばによって、教えられ、戒められ、矯正され、義の訓練を受けるなら、あなたはあらゆる問題に対して、それに正しく、神のみことばに沿って対処できる整えられた十分に完成した人物になることが出来ます。」と。彼はクリスチャンの達人になることが出来るのです。どんな食材が来ても、どんな人生の難関がそこにあっても、彼は召しにふさわしい歩みをする事が出来るように、選択をすることが出来る人物なのです。それは靈感によって書かれたみことばによって彼が訓練されたからです。

聖霊は私たちの助けが必要ではありません。聖霊はご自身で私たちを変える働きを十分に為すことが出来ます。私が別に皆さんに試練を与えなくてもいいのです。試練を与えるのは神の働きです。苦しみ

を与えるのは神の働きです。私がわざわざ皆さんに試練や苦しみを与えなくてもいいのです。でも、神は今この時代において、教会に賜物として使徒たち、預言者たち、伝道者たち、牧師・教師たちをお与えになりました。何のために？みことばを説き明かし、みことばを教え、みことばを実践する者の模範として生きさせるためです。それが彼らを与えている目的なのです。それゆえに、パウロは私たちに言います。**「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。：3」というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言うてもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、**」（Ⅱテモテ4：2－3）。なぜ、このことをしなければいけないのですか？それはそこに力があるからです。そこに人を変える働きがあるのです。それによって教会は建て上げられて行きます。

それゆえに、もし私たちが神の教会を建てようと思うなら、神によって与えられている教会のリーダーたちがその目的に沿った働きを為して行かなければいけません。余りにも多くの教師たち、牧師たち、リーダーたちが教会の様々な働きをすることに忙しくなってしまうと、みことばの学びを十分に出来ないのです。また、それ以上に多くの教師たち牧師たちが、どうすれば人を救いに導くことができるのかということに関心を寄せる余りに、みことばを深く学びそれを正しく説き明かすことが出来ていないのです。また、他の人たちは教会の会堂を満たすことが出来るすばらしい次のプログラムを考えること、それを管理することに一生懸命で、みことばを正しく説き明かすことが出来ていないのです。

皆さん、覚えていますか？伝道者たちが与えられているその一番の目的は何でしたか？伝道者が与えられている目的ですら、それは「人を救うため」ではなかったのです。伝道者たちは「聖徒を整えるために」与えられたのです。それこそが教会のリーダーたちがしなければいけない唯一無二の目的です。このことを考えるに当たって、パウロはさらに二つの細かい説明をしてくれるのです。具体的な事柄を表わしてくれます。

○目的に関しての細かい説明

目的は一つです。聖徒たちを整えることです。整えることによって、具体的にどのようなことが言えるのか、その説明がこの12節に二つ加えられています。

（1）奉仕の働きをさせる

1番目にパウロが言うことは**「聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせる」**ということです。これこそがまさに私たちが冒頭で考えた疑問の回答です。神は牧師たちが熱心にみことばを学んで、燃やされることのないしっかりとした素材で教会を建てたら、中身がなくても構わないとは思っていないのです。神はその教会の中がふさわしくすばらしい家具で満ちることを願っています。神はその教会の活動が活発であることを願っておられます。では、いったいだれがそれをするのでしょうか？パウロは言います。**「聖徒たちを整えて、奉仕の働きをさせる」**と。皆さん、牧師たち、教師たち、教会のリーダーたちは教会の信徒たちが十分に整えられたことで満足することが出来るわけではありません。出来ないのです。皆さんがどれだけみことばを熱心に聞いて、皆さんがどれだけみことばの知識を蓄えて、「私はどんなことがあっても神の召しにふさわしい歩みをして行くことが出来ます。」とどれ程言ったとしても、それで私たちが皆満足することが出来るのか？出来ないのです。なぜなら、その準備その成熟は、必ず、奉仕の働きに現われなければいけないからです。

パウロはここで「ディアコニア」ということばを使っています。これは「奉仕」です。このことばは「執事」ということばの語源に一致するもの、その家族のことばですが、それは「助けを与える、具体的な働き、奉仕、それをする」という意味合いをもっています。そして、この働きに従事しているのはキリストが与えた賜物たちではありません。彼らもちろんその働きをしています。けれども**「聖徒たちが整えられて」**これをすると言っています。すべての信徒たち、それがだれであろうとも、整えられてこの奉仕の働きをすると言うのです。皆さん、7節を見てください。4：7**「しかし、私たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました。」**、一人ひとりに賜物が与えられていることをパウロは記しています。キリストは単に教会に賜物としてこれらの人物を与えただけでなく、一人ひとりのクリスチャンに御霊の賜物をお与えになっているのです。そして、キリストは賜物を与えているゆえに、その賜物を用いて一人ひとりの聖徒が働くことを求めています。ローマ人への手紙12：3－8などを見ると、パウロはそこで信徒たちが彼らに与えられている賜物を用いるように命じています。預言の賜物がある者は預言をし、教える賜物がある者は教えをし、仕える賜物をもっている者は仕えなさいと、それをしなければいけないのです。**「私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってははいけません。いや、むしろ、神がおのおのに分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい。：4 一つのからだには多くの器官があって、すべての器官が同じ働きはしないのと同じように、：5 大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。：6 私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、もしそれが預**

言であれば、その信仰に応じて預言しなさい。:7 奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教えなさい。:8 勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行なう人は喜んでそれをしなさい。」。ペテロはⅠペテロ4:10でこのように言います。「それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。」。皆さんには賜物が与えられています。皆さんが救われたその瞬間に、キリストは皆さんにすばらしい霊的な賜物をお与えになりました。救われた者は皆この賜物をもっています。それが例え何であっても…。そして、ペテロは言いました。「神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。」と。ちなみにこれは命令です。命令であるゆえに、これは私たちが為さなければならないことなのです。

余りにも多くの時に、クリスチャンたちは教会に来ること、礼拝に出席すること、集会に集うこと、それらを奉仕の働きをすることの代わりにしています。けれども、もし皆さんが神がお与えになっている賜物を用いていないとするなら、そして、もし、みことばの教えを通して整えられる中で、その賜物をもっと用いて働きたいと願うことがなければ、皆さんは教会を建て上げる働きをしていないどころか、神の前に大きな罪を犯しているのです。なぜなら、神はこの恵みの管理者として皆さんに賜物をお与えになり、それをしっかりと用いることを皆さんに命じておられるからです。事実、皆さんはもし自分の賜物を生かして奉仕の働きに熱心になっていないとするなら、皆さんはキリストの召しにふさわしく歩んではいません。なぜなら、キリストの召しこの救いの召しは、互いに愛し合い仕え合うことが要求されているからです。

ウィリアム・マクドナルドという先生はこのようなことを言われました。「教職と一般信徒という区分は非聖書的なものであり、ひょっとすると福音が広まって行かない最も大きな障害の一つではないだろうか。」と。教職と一般信徒との違いは非聖書的なものであり、福音が広まって行かない最も大きな理由はまさにこのことにあるのではないかと言うのです。私もその通りだと思います。皆さん、プロフェSSIONナルなクリスチャンはいないのです。逆に言うなら、クリスチャンであるなら皆がプロフェSSIONナルなのです。すべての人たちにそれぞれに与えられている責任があり、それを満たすための賜物を与えられているのです。そして、もし、皆さんが奉仕の働きに熱心でないとするなら、皆さんはその働きを全うしていない、神の前に罪を犯していると言えるのです。召しにふさわしく歩んでいない信徒であると自ら自覚しなければいけません。すべての信徒たち、聖徒たちが奉仕の働きをしなければいけないのです。それは伝道者たちや牧師たちも同じです。けれども、神は特別な働きを賜物である彼らにお与えになりました。それはみことばの奉仕を通して、みことばの働きを通して、すべての聖徒たちを整える働きです。そして、そのようにして整えられた聖徒たちはますます喜んで、与えられている賜物を用いて主の前に仕えて行こうとするはずなのです。このようにして教会の働きは進んで行きます。こうして燃えることのない素材を使って建てられた教会の中に、その中にふさわしい家具が入って行くのです。

皆さん、浜寺聖書教会にはふさわしい素材でふさわしい教会が建っていますか？浜寺聖書教会にはふさわしい家具が並んでいますか？この教会の中には、活発に熱心に奉仕の働きがすべての聖徒たちによって行われていますか？この教会の中には、今私はこの奉仕が出来なくて悔しくしょうがないのですと思っている賜物を用いたくてしょうがない人たちで溢れていますか？私たちはそのことを問いかけなければいけないのです。神の教会とはこのような教会です。みことばが正しく説き明かされ、その説き明かされたことによって、人々が整えられて、益々奉仕をしたいと願うような教会です。益々神に仕えたい、益々神に喜ばれる働きをしたいと。皆さん、私たちはそれぞれに与えられた働きを全うしているのでしょうか？奉仕の働きをさせる、そのことが一番目の働きでした。

(2) キリストのからだを建て上げるため

もし、このような表現をしてもいいなら私はこのように考えます。奉仕の働きをさせるというのは、聖徒たちが整えられる時にすぐに起こって来ることです。聖徒たちが整えられ完成し続け、成熟して行くと何が起こるのかというと、成熟したクリスチャンが与えられている賜物を用いて、神のお役に立ちたいと願って生きるようになります。だから、奉仕の働きはすぐに起こって来るのです。その奉仕の働きが繰り返されて皆がその働きをして行くと、教会全体が建て上げられて行きます。聖徒たちが一人ひとり整えられて行くと、彼らは「私は喜んでこの働きをしたい」と願うようになるのです。一人ひとりが成熟して行きます。そして、その成熟した一人ひとりが、皆で力を合わせてこの奉仕の働きを熱心に為して行くと、教会全体が建て上がって行くのです。それがパウロがここで言っていることです。

残念ながら、私たちはこのことを余り考えません。なぜなら、今私たちが今生きているこの時代、この世界は非常に個人主義的な世界だからです。私たちは自分のためになることは熱心にやるけれど、そうでないことには余り関わらない方がいいと言います。そのように思い込まれます。だから、私たちはいつも自分の頭の中でこのように言います。「これがいったい私に何の徳になるのでしょうか？これをすると私に何の益があるのでしょうか？」と、皆さん、これは生まれながらの人間がもっている考え方です。キ

リストによって救われた私たちは、もうそのような考え方は横に置いて、違う考え方をするようになったのです。それは、神から与えられている賜物を用いて、私はどのようにして人の徳を高めることが出来るのかを考えるようになる考え方です。私は自分のことは横に置いて、自分のことを犠牲にしても他の人を愛することが出来るように、どのように教会の中で生活して行こうかと、そのように思うのが私たちの新しい考え方のはずです。そうして奉仕の働きが為され、互いに仕え合い、お互いの徳を高めあって行くときに、教会全体が成長して行くのです。

人々は往々にして教会から何かを得るために教会にやって来ます。日曜日の礼拝に出席するのは神からの祝福を得るためですと言います。こうして皆さんが椅子に座ってメッセージを聞かれる時に、自分にとってそれは何の関係があるのか？関係がないと思うと全く別のことを考え始めてしまう…。もし、そのような態度で私たちが礼拝に出席するとするなら、私たちは間違った態度をもって教会に来ています。教会は私たちが受けるために来るところではなく、私たちがささげるために来るところです。私たちが与えるために来るところです。お互いのために仕え合うために来るところです、そのことは聖徒たちが整えられ、奉仕の働きを熱心に行なっていくときに、間違いなく起こって来ることです。

神は間違いなく明らかに教会が幼子のままでいいとは思っていません。赤ちゃんの教会がたくさん出来ればいいとそのように神は思っていないのです。神が求めているのは生まれた教会がその完全な姿へと成長して行くことです。例え、この教会に1万人の人が集まって来たとしても、その90%、95%の人たちが生まれたばかりのクリスチャンのままの状態で居続けるとするならば、神はこの教会を見てきっと喜ばれないでしょう。問題は人数ではないのです。問題はどれだけの人たちが集まっているのかでもないし、どれだけすばらしいプログラムが行なわれているかでもありません。問題は教会が成熟しているかどうかなのです。

どのようにして成熟しますか？みことばによってです。聖霊の働きを通して、神が試練を与え、苦しみを与えることによってその成長を促し、みことばが一人ひとりにしっかりと植え付けられ、そのみことばを通して聖霊が働かれる時に、私たちは整えられた完成された者へと変わって行くのです。だから、神はその働きをすることが出来るように、教会に賜物として使徒たち、預言者たち、伝道者たち、牧師・教師をお与えになったのです。それが為されるとすごいことが起こります。この箇所を見てください。聖徒たちが整えられる働きを熱心にしました。聖徒たちが整えられました。聖徒たちは奉仕の働きをします。教会が建て上げられます。どうなりますか？エペソ4：13－16「**ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。：14 それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもたえおぼれたりすることがなく、：15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。：16 キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。」**、皆さんこれが教会の建て方です。これが神の設計図です。教会の歴史を通して、すべての敬虔な神に仕える者たちは皆、使徒に始まり、現代の牧師・教師に至るまで、この一つの目的のために働きをして来ました。聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。

この世の中にはたくさんの教会と呼ばれるものがあり、その教会には多くのすばらしいと人からの評判を得た人たちがいます。彼らはその教会の余りにも大きなサイズのゆえに、また、すばらしいプログラムのゆえに、牧師たちの中でも最もすばらしい牧師として人々から尊敬を受けています。確かに、多くの人たちはそのようなプログラムや彼らの巧みな計画に関心を寄せ、彼らに沿って教会を建てようとするかもしれませんが、私たちのもっているすばらしいこの聖書は、私たちに一つの教会の建て方を教えます。それはイエス・キリストという礎石に沿って並べられた使徒たちと預言者たちの土台の上に、みことばの真理に沿ったふさわしい建物を建て、その中に活動するクリスチャンたちが奉仕の働きを熱心にし、教会が建て上げられて行くことです。これ以外に教会を建てる方法はありません。それ以外に私たちは教会を建ててはいけません。皆さんも私もその過程の中にいます。皆さんにも私にもその働きが託されています。皆さん、この働きをしたいと思いませんか？浜寺聖書教会が、神が喜ぶ神の設計図に沿った教会となるように。この建物が問題になるものではありません。問題は中にいる私たちです。なぜなら、私たちが教会だからです。神の前にどのような建物が建って行くのでしょうか？正直、神の前に立つのが怖いのです。燃えますか、燃えませんか？称賛が得られますか、得られませんか？どうでしょう？それは、私たちがいかにこのみことばに忠実に教会を建てるかどうかです。